

IGS理事会報告

2023 第 1 回理事会報告

防衛大学校システム工学群 宮田 喜壽
エターナルプレザーブ 久保 幹男

1. はじめに

国際ジオシンセティックス学会（IGS）における 2023 年理事会が令和 5 年 4 月 20 日オンラインで開催された。以下、その概要を報告する。

2. 財務状況に関する報告と審議

- ・ 財務担当理事より、2023 の 1 四期の財務状況が報告された。昨年度と同じく支出が収入を上回る傾向であるとのこと。
- ・ 予備費に関して、基本的に学会運営費の 12 か月分を確保するという運用方針が定められた。
- ・ 2023 年 2 月にローマで開催されたコーポレート委員会のフォーカス・グループ会議において、IGS の財務基盤をしっかりとしたものとする必要性などについて議論されたことが報告された。
- ・ 今後の会費のあり方について議論がなされた。内容については、各地域委員会との議論を行う等、慎重に進められることになった。

3. 2023 年の計画

- ・ IGS ハンドブック作製にあたり、技術委員会が基本的枠組みを構築し、その後、カーナー氏（Koerner、米）が中心となって作業を進めることになった。
- ・ ジオシンセティックス材料・工法のサステナ ビリティ指標（CO₂ 排出量など）を算定できる計算システム の開発が進められてきている。第 12 回国際ジオシンセティックス会議において、その概要を会員諸氏に紹介する予定であることが報告された。
- ・ ジオシンセティックスに関する情報を IGS から地域の業界団体に対し発信するアンバサダー・プログラムを中国で展開する計画が報告された。
- ・ 他の学協会と協定を結ぶ際の手順などを定めたリエゾン方針が議論され、承認された。
- ・ IGS の多様性を確保するための活動が報告され、タスクフォース委員会の設立が検討されることになった。
- ・ IGS の組織のあり方を検討するストラクチャー・タスクフォース委員会の構成と活動内容が報告された。

4. その他の情報

- ・ GeoAfrica4（カイロ）：約 400 名の参加者の中、学術セッションに加え、ピーター・レグ（Peter Legg、南アフリカ）氏によるケルビン・レグ講演、学生論文賞が授与された件が報告された。

5. おわりに

次回の理事会は第 12 回国際ジオシンセティックス会議前日に開催が予定されている。理事会での議論からは、サステナビリティな時代に貢献するジオシンセティックスの浸透を図っていく意気込みが感じられた。我々としても積極的に活動していく必要がある。